朝日新聞掲載記事
2025年（令和７年）６月27日（金）第15面（茨城版）
承諾番号25-1766

※朝日新聞社に無断で転載することを禁じる

憧れるプレー 髪形は関係ない

県高野連加盟校 進む脱「丸刈り」

イマドキ球児 中

「丸刈り禁止」とされている水戸桜ノ牧の選手たち。大川修一監督（左）から指導を受けている＝水戸市小吹町

6月の夕方。記者が水戸桜ノ牧のグラウンドを訪れたときの光景だ。

同校の野球部は「丸刈り禁止」をうたっている。渡辺健主将（3年）は「伝統」と強調した。

渡辺主将も高校入学後、頭を丸めると思っていた。でも、中学3年のとき、同校の野球部に進んでいた先輩からその伝統を聞き、驚いた。

「寝癖を直すなどの行為は、社会に出たら必要。選手として自立するための練習」だと聞いた。納得できた。

2019年秋、当時監督だった喜田聡さん(43)＝現・公益財団法人県スポーツ協会指導主事＝の発言から始まった。

当時、全員が短髪。みんな驚いていたが、反発はなかった。

公立で練習時間は限られている。でも、甲子園出場をつかみたい。それなら、部活動以外の時間も使って、自立した選手になればいい――という喜田さんの考えに、みんな納得したからだった。

野球部は大勢に応援される。ふさわしいチームにならないといけない。日々の生活から胸に刻めば、選手としても人間としても成長するはず。

そんな思いだった。

すぐに結果は出なかった。ただ、22年夏の水戸葵陵戦。4点リードを許して迎えた九回裏に逆転勝ちし、ベスト16に入った。渡辺主将ら現在の3年生が、水戸桜ノ牧をめざすきっかけとなった。

昔ながらの髪形を否定しているわけではない。喜田さん自身、水戸桜ノ牧での監督時代に2回、けじめをつけるため頭を丸めたことがある。

たとえば、選手たちが体重を増量しようと、毎日体重を計測する約束をしたが、全選手に浸透できなかったとき。「約束を守った選手に申し訳なかった」と振り返る。

高校野球の髪形はいつも注目される。だが、こう思っている。「野球をする子どもたちが憧れるのは、はつらつとしたプレーや真剣な表情」。だから、髪形に関係なく、様々な多くの人に野球を楽しんでもらいたいし、大勢の人にそのプレーする姿を見てほしい。

野球の魅力を感じられるのは「練習で積み上げてきたものが出たとき」であり、「選手たちにはそんな姿をめざしてほしい」と思っている。

９割近くは定めず ■「乾かす時間を睡眠に」の声も

球児の髪形について、「自由化」が進んでいることが、県高野連加盟の91校への朝日新聞のアンケートでわかった。

回答した90校のうち9割近くは、髪形は「校則の範囲内で」「自由」「決まりはない」などという状況だった。「丸刈り」と決めているのは、7校にとどまった。

5～6月、各校にメールなどで調査し、監督や責任教師らが回答した。

「選手たちで話し合い、丸刈りかスポーツ刈りのどちらか選択できるようにした」（太田一）、「丸刈りでなくてもよいというルールを決めて2年目」（多賀）、「5年前に1年間『丸刈りを禁止』とし、その後髪形自由に移行」（牛久）といった回答が寄せられた。

丸刈りをルール化しているわけではないが、賛成寄りの意見も少なくなかった。「気合をいれるため」（大子清流）、「髪の毛を乾かしたり、セットしたりする時間を睡眠にあてる方が理にかなっている」（藤代）などだ。一方で「もはや、そのような着眼点は指導者としてあまり興味関心の及ぶところではない」（土浦三）という回答もあった。

（後藤隆之）